

どんな学び
の場が必要？

年齢、学歴、収入を問わず

平等に学べる場が必要。

それは人々の

居場所を作ることにもなる。

Ⅱ 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

一番の問題は教育。ここにポイントを絞るべき。

学校教育を変えていかないと日本が危ない。

日本人のウィークポイントは当たり前を超える発想がなかなか出てこないこと。そもそもそういう教育がなされていない。古すぎる発想の根本には教育の問題がある。

人づくり
= 未来づくり

インフラ投資よりも将来の人を育てることが重要。

人づくり = 未来づくり。子どもの教育が一番大事。もっと税金を使ってよい。

Ⅱ 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

日本の学校はいまだに受験勉強の場所に止まっている。学校が予備校みたいだ。

中学受験を経験したが、受験社会に閉塞感を感じる。今のような大学入試は本当に必要か。

公立校の詰め込み教育を改革してほしい。特に受験教育の変革が必要。偏差値重視の進路指導はやめてほしい。

個性を尊重し
自由な発想を
大切に

個性を尊重し自由な発想を大切に
する社会になってほしい。その
ためには詰め込み式の教育を
やめないといけない。

今の学校は、教科の点数で評価
する部分が大きく、自分のやり
たいことで人に喜んでもらったり、
達成感を感じたりすることが
少ない。

II 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

大人自身をもっと自分らしく生きられるように、ある意味育てないと、いくら子どもの個性を伸ばすとか言ってもダメだ。

大人の価値観を変えないと、いくらいい施設や、いいサービスを提供しても、子どもの世界も、社会もよくなるらない。

子どもの問題の多くが大人の問題で、大人が変わらないと解決しない。まず大事ななのは、大人自身が自分と子どもが違う人間であることを認めること、子どもに自分の価値観を押し付けないことだ。

大人の
価値観を
変える

双子でも個性が違うのに、すべての人が一人ひとり違うという当たり前のことが分かっていない大人が本当に多い。

根本は家庭教育であり、お父さんお母さんの教育から始める必要がある。遠回りのようだが、その方が早い。

親にとって重要なことは、子どもを変える唯一の方法は自分が変わることだと気づくことだ。

II 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

良い大学に入って、大きな企業で働いてという、一般に良しとされる価値観をチェンジさせる必要がある。

「いい大学へ行って大きな会社に入って、出世することが幸せ」という、価値観は正しいのか。学校だけでなく、社会の価値観そのものを思い切って変えないといけない。

不登校の子どもたちは、人間を枠にはめようとする今の教育の限界に対し、一生懸命声を挙げてくれているのではないか。

社会の
価値観を
変える

小中高とありきたりの教育の中に押し込まれて、受験で合格して大学に入った途端に自由にしなさいと言われても無理な状態になってしまっている。

子ども時代は、みんな同じでないといけない、という学校教育に息苦しさを感じていた。

今まで親と先生のいうことを聞くことが一番大事だと思って生きてきた。それが大学に入ると急に、好きな研究をしろ、どこの会社に入るかは自由だと言われて困る。

II 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

人の言うことをよく聞き、その上で最後に決めるのは自分というのが「自己決定」の本質だ。

所得や学歴より「自分で選択できること」の方が生活の満足度や幸福度とのつながりが強い。

自分らしさを追求することを教育するなら、ありのままの私でいい、ということを積極的に考えることがまず必要だろう。

「自分らしさ」は「自分勝手」とは違う。社会との調和を保ち、社会規範を守るからこそ自由が手に入るということを子どもに伝える必要がある。

自分で選択
することで
幸福に

もっと個性を尊重して伸ばす。自分の意見が言える。そういう教育をしないと、これからの時代に自分の力で生きていけない。

自分らしさを押し込めて仮面をかぶっていたりする状態で個性を伸ばせと言われても、それは難しい。

個が充実してこそ、他人にも優しくできる。

相手の立場に立って考える「エンパシー」が教育の中で身に付けば、世の中が変わる。

II 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

学校の先生はオンラインでできないことに特化した教育活動を行う方向で能力を高めたほうがいい。

科学的に立証された知識を学ぶ場、信頼できる情報や考え方に触れる機会、そうしたものが、オンラインでもいいが、ますます重要になってくる。

子どもが自分の興味関心から動き、自分のペースで探究できる実感を持てるようにすることが大切。それが、人やモノへの愛着、学びの意欲、生活全体の態度を自然と高めていく。

なぜ？
どうして？
を伸ばす

今見えているもの以外の課題を設定して、解決のために試行錯誤させる教育が必要。

小さい頃から、何かに興味を持って、それを探求していくことが少ない。子どもたちの「なぜ、どうして」を伸ばすことが大切ではないか。

「知識を蓄える、正解を見つける、ルールに従う」などの能力ではなく、「アイデアを生み出す、問題を見つける、個性を尊重する」といった能力が必要になる。

Ⅱ 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

もっと伸び伸びとした教育で、夢をつかみ取ろうとする若者を育てていく必要がある。

いろんな枠組みから「はみ出す」価値観が生まれたときに面白くなるんじゃないか。

これからの時代に必要なのは、真似ではなく、自分で考えて行動する人だ。個性を伸ばした上に創造力を育む教育、この教育を大切にしていける必要がある。

「はみ出す」
価値観で
面白くなる

考える力、自発性、そして議論を臆さない人材づくりということを一つの目標としてビジョンで意識的、明示的に掲げないと変化は期待できないのではないか。

サラリーマンを作る教育から、もっと多様な人材を育てる教育に切り替える必要がある。問題の根幹は初等中等教育にある。内申書重視も問題だ。

II 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

AIは脅威だが、逆に考えればやることはシンプルで、AIが不得手なところを徹底して鍛えること、つまり教育が重要。問題は創造力や心の資本を持ち合わせた人材をいかにして増やすか。

世の中の急激な変化に対応できる人を育てることが大切。そのためには柔軟な考え方ができる大人、フラットな考え方ができる大人が必要。つまり教育自体に柔軟性を持たせてほしい。

教育に
柔軟性を

子どもができるだけたくさんの大人の多様な眼差しに触れることが大切だ。特にユニークな大人との出会いが重要。

得意不得意に応じた関わりが必要であり、個々の特性に合わせた学習環境の整備が大切。

個々の子どもに合わせた学びに変わることによって、教育のあり様が激変する。子どもたちの成長をどう考えていくかが課題である。

II 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

学校教育は標準化できる部分はオンラインで標準化し、個別のフォローをするのが先生の仕事という形に変えた方が子どものためになる。

オンライン化は、学習する意欲はあるが様々な事情で登校できなかったり、過疎地で通学が不便だったり少人数での学習しか体験できない環境にいる子どもを救うことにもつながる。

全県一律にクオリティの高い教育が提供できれば、場所に縛られることなく住めるようになる。

教育格差なく
同等の教育を

子どもが少ない地域でもICTを活用するなどして日常的に多くの人と交流できるような学習方法が行われ、どのような地域でも教育の格差はなく同等の教育が行われている。

教育で貧富の差が出る。そのことで子どもが悲しむことのないようにしないとイケない。

塾の費用が高額。貧富の差が子どもの将来に影を落とす。

学校が大事なのに不登校、いじめなど問題が多い。

II 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

様々な心動かされる体験を通して社会や地域への関心を高め、心の豊かさを獲得していく。

効率化によって生まれる余白を使って、人間らしいことを体験したり学んだりする教育にシフトする必要がある。

体験が子どものクリエイティビティを伸ばすことに気付いている親もいる。体験を通じた学びが家庭任せになると、格差が拡大し、固定化する。

人間本来の
五感を鍛える

子どもの野生復帰が必要だ。原体験を培うのは、外遊びや土に触れる経験。自然に触れ、五感を刺激する環境で子どもを育てないと将来が心配。

情操教育に力を入れるべき。教育のデジタル化が進む中だからこそ、人間本来の五感を子どもの頃から鍛えることが大事。

子どもが頭でっかちになっている。知っているが、やったことがない。体験を通じて学ぶことがますます大事になっている。

II 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

日本の教育は「将来何になりたいか」といったことを語らせるため、職業を1つに絞らせがち。いろいろな刺激を学生に与えていけばもっと夢が広がるはず。

学生の大半が、何となく一般的な価値観で就職先を決めている。小さい時から、いろんな職業を知る機会、自分のキャリアや働き方を考える機会を与えるのが、学校や社会の役割だ。

いろんな
刺激で
夢を広げる

学力重視の教育を頑張ると、地域の人口を減らすことになる。大学に行かずに高校を出て地元で仕事をしていく人を育てる道筋も大切。

生き方について若い人の視野が狭い。世の中にはいろんな仕事や稼ぎ方、生き方があるということに子どもの頃から触れられるようにする必要がある。

Ⅱ 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

自分で何かをやってみようという機会を学校が与えていくことが重要だと思う。

何かにチャレンジするとき、応援してくれる、受け入れてくれる空気感がまちにあることがとても大事。

好きなこと
得意なことを
伸ばせる環境

自分の好きなこと、得意なことのでどのようにして社会に貢献できるかを子どもたちと一緒に考えることも大切。

今の若者は、社会は変えられないと思っている。学校教育の自由度を高めて、好きなこと、得意なことを伸ばせる環境、小さな意見やアイデアが生まれやすい環境をつくる必要がある。

Ⅱ 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

子どもが成長する中で体験すべきことのミニマムは何なのか、それをどう確保するか、ということも考える必要がある。

特別支援という形で分けるのではなく、同じ環境で教育を受けながら、どの子ども次のステップを選んでいけるよう支援する教育が都市でも地方でも必要。

困難に向かって取り組む力など、学歴ではわからない力をつけることに地域や学校が親と一緒にあって取り組む必要がある。

いろんな
場所で
いろんな人に
出会う

画一的な学びではなく、いろんな場所で、いろんな人に出会い、いろんなことを知る機会があることが重要。

知識の伝達はよく練られた動画でやる方が効果的。学校でしかできない経験、集団でしかできない体験をするのが学校の役割になる。

親が地元の活動を一所懸命やる姿を子どもが見るのは、子どもの成長にも良いと思う。

Ⅱ 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

大人も子どももみんなが共感し、
学び合って変化していく。ただ
住民になるのではなく、地域に
関わりながら暮らしていくこと
が、地域への愛着にもつながる。

若者や子どもたちが普段関わる
ことのない人と世代の垣根を越
えてつながっていけるまちにし
たい。

大人も子ども
も学び合って
変化していく

学生・若者をもっと地域や社会
とつないでいかないといけない。

グローバル化に対応する一方で、
日本独自の部分を保つことも重
要であり、そうした視点からい
ろいろな教育プログラムを地域、
学校、大学が連携して考え、実
施していくことが大事だ。

Ⅱ 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

自分はどの地域に根差しているのか、どの地域に責任を持っているのかがインストールされていないとフリーライダーだらけになる。

家庭で「嘘をついてはいけない」と言っている親の割合が日本では減っていて10%程度。当たり前前のことが、もはや当たり前ではない。だから幼稚園や学校で教えないといけない。

コミュニティ
に対する
素地をつくる

コミュニティに対する素地がないと誰も地域に目を向けなくなる。

林業は実技で学ぶのが危険な内容も多いので、バーチャルで学ぶことは非常に有効。活用できる範囲は今後も広がる。

学校が持つ教育の機能を一部、地域に移し、地域の大人と子どもが交流しながら、ともに成長できるまちをつくりたい。

Ⅱ 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

6・3・3制をやめて、成長に合わせて学ぶ場を選択できるような仕組みに改めるべき。

幼少期からいろんな形の教育を提供できる学校機関がいろんな場所にできたらいい。

不登校も一つの選択肢。学校に戻すことを考えるより、学校以外の学びの場を整えていくことが重要だ。どこにも行けていない子を減らすことが大切だ。

学ぶ場を
選択できる

不登校の話をよく聞くが、親が自分の価値観を押し付けるばかりで、子どもの心に寄り添えていないせいもあると思う。

フリースクールが重要になる。もっと多様な学校を選べる選択肢があればいい。

Ⅱ 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

兵庫県に住めばこんな教育を受けられる、こんな人材が育つということの一つの魅力にして、しっかり発信していくべき。

学校教育の要諦は子どもたちの選択肢を広げること。脱「画一」が必要だ。

生活圏に求める価値で一番重視するのは、やはり子どもの教育だ。将来の進路の選択肢が狭まってしまうのは、大きなデメリットだ。

教育の選択肢
を広げる
脱画一

大学や短大での教育も変わり、複数の分野を専攻して幅広い知識を形成することや、卒業後直ちに就職するのではなく様々な経験をすることに充てるギャップイヤーを経る人が増える。

教育の選択肢を増やし、運動や芸術、農業、工学など、義務教育にも選択の自由があってもおかしくない。

小中学校でも、オンラインでいつでもどの単元でも勉強できるようにし、留年や飛び級を選択できるようにしてほしい。

II 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

大人の教育、生涯教育が広がる地域は魅力的である。

年齢に関わらず、好きなときに好きなテーマで学べるように教育のあり方を変えていくべきだ。

人生の中でインプットされたバイアスに気づくことも生涯学習の大きな意味の一つだ。

多世代が
自由に教育を
受ける

技術の進歩によって人から機械に仕事が置き換わっていくので、仕事がなくなりそうな人が別の仕事にスキルチェンジするための学び直しを整備していくことが大切だ。

若い世代だけではなく全世代が教育を受けられ、ITが強くなること。多世代が自由に教育を受け、世代間交流が活発になればいい。

学び続けられるというよりは、大人になっても学ぶのが当たり前、学び続けるのが当たり前の社会をめざすべきだろう。

II 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

一人二役、あるいはそれ以上できるように新しい能力を身につけたり、リタイア後も再度活躍できるように新たな能力を身につけたりといった、能力の再開発支援制度を作る必要がある。

今の日本には、日本人Aと日本人Bがいる。日本人Aは50代以上で、成人後にデジタル社会になった世代。日本人Bは30代より下で、スマホが体の一部になっている世代。今後は日本人Bが社会の主役になっていく。社会のヒエラルキーが変わる。

本気で生産性を上げないと非常に危険

サービス産業化＝低賃金層の増加とならないよう、サービス産業のキャリアパスを作り、学び直しの環境を整える必要がある。

日本では、民間企業の人的資本投資も少なく、官民合わせて人に投資していないので、遅れるのは当然。

日本の一人当たりGDPは世界の20位より下まで下がった。日本が相対的に貧しくなっているということ。本気で生産性を上げないと非常に危ない状況だ。

Ⅱ 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

何歳でも何かを学んで得ることがある。

生涯にわたって学び続けることで、より良い充実した人生を過ごすことができる。

喫緊の課題は図書館を質量共に充実させること。

生涯に
わたって
学び続ける

生涯を通じて学べる機会を持つために、専門性を持った熟練者がリタイア後、学校を開くなど、義務教育以外の場での学習の循環を作る。

子どもから大人まで財力で差が出ない学習環境を。

行政が中途半端に生涯学習事業をやるよりも、受講料や通学費を補助するなどして大学の利用を促進すべき。

Ⅱ 新しいことに挑戦できる社会

4 みんなが学び続ける社会

「みんなが先生、みんなが生徒、どこでも教室」をキャッチフレーズに、あふれる学びの場を実践している。

地域の中にはいろいろな学びの場がある。テーマ型の学びの場をもっと増やす必要がある。

みんなが先生
みんなが生徒

学びは完全に道具的なものではない。それ自体を目的とする学びもあってよい。

学校教育だけでなく、趣味のようなことでも学べる場がもっと増えれば、親と子どももより一層関係を深めることができる。

どんな挑戦を
する？

THE起業みたいなものばかりでなく、

もっとマイクロな起業を大切にして、

いろいろななりわいを持つ人が

集まり住む兵庫になってほしい。

「起業」が「就職」と同じぐらいの選択肢として普通にある社会をめざしたい。

起業がもっと身近だということが広がるといいのではないか。

兵庫県は、スモールビジネスがたくさんできる環境にある。スモールビジネスはやりたいことをやりたい方法でできる。自分プラス一人分の雇用ぐらいでビジネスができる。

起業をもっと
身近に

個人が地方で輝くには、仕事と何かを組み合わせで一人ひとりが価値を生み出していくことが必要。年齢に関わらず。みんなが輝く地域になってほしい。

DIYが地域の愛着に結びつく素晴らしい行為だと身をもって体感してきた。

起業家たちが人を雇用し、細い木が大きな幹になるような楽しく働ける環境をつくりたい。

百戦錬磨の人が伴走してくれるのであれば、迷っている人は一歩を踏み出すかもしれない。

強い側から弱い側へ、これどうぞと押し付けるのではなく、一緒に考え、一緒に決める「伴走」が大事。

資金や資金調達先を持ち、いかにコネクションを使って若い人と組んで、新たな事業展開をするかという、シニアの起業に向けた土壌づくりをしないといけない。

ポイントは
人との出会い
つながり

兵庫は有名な起業家を輩出しており、地元を愛している人もいる。そういった人とのつながりは県に期待する役割だ。

若い人が、好きな事業をどんどん起こしていくにしても、まず一人ではノウハウが足りない。ポイントの一番は、人との出会いやつながりである。

兵庫で創業しても、途中で出ていってしまう人もいる。兵庫にいたいなと思ってもらえる教育、環境づくりが大事だ。

II 新しいことに挑戦できる社会

5 わきあがる挑戦

兵庫は本当にダイバーシティ。
こんなになんでもできる場所
はない。

中山間地域は資源の宝庫。その
資源でビジネスを起こして課題
先進国の課題を解決できる。

農業×環境、農業×古民家など
のスマールビジネスが兵庫では
面白いのではないか。

兵庫は本当に
ダイバーシティ

最初の一步は、その人が踏み出
さないといけない。そのきっか
けが何であっても構わない。と
にかくまず自分から踏み出す、
出ていく、ということだろう。

豊かになりたいなら特区を各地
に立ち上げて、実験的なビジネ
スをたくさんやるべき。

5 わきあがる挑戦

ボランティア活動や地域のイベントなどへの参加を通して、つながりが広がり、考え方が変わる。そこから様々な課題解決へ発展するのではないか。

兵庫県がもう一度民間非営利セクターに目を向け、日本の「非営利活動の首都」と言われるようになってほしい。

市民活動だからこそ、何かに縛られることなく自分たちで進めていける。このことを発信していけば、地域づくりを主体的に考える人が増えるだろう。

寄付は
支え合いの
象徴

寄付は支え合いの一つの象徴だ。「日本一寄付の盛んなまち」を5年ぐらいかけてめざさないか。

地域に関わりのある人がどんどん参加して、地域づくりや事業に投資してもらえるようなコンソーシアムができたらいい。

大事なことは一人ひとりの市民参加であり、個人の寄付が盛んになること。

寄付が当たり前の支え合いの文化を作らないといけない。支え合いにはいろいろな形があって、時間は割けないけれども、お金は出せるということもある。

II 新しいことに挑戦できる社会

5 わきあがる挑戦

将来には不安もリスクも多いが、それを解消するためにもチャレンジングな人材が活躍できる環境をつくっていく必要がある。

再挑戦を許してくれる社会、失敗してもそれがペナルティにならない社会、再チャレンジするときに資金面などで支えてくれる社会の姿が見えるようになるとよい。

リスク、失敗、違いを恐れない、そして非難しないという方向性を明言するビジョンを望む。

リスクを
取りやすい
社会へ

一人ひとりが小さく始めていくことを推奨することと併せて、リスクを取りやすい環境を作ることが大切だ。

日本社会はやり直すときのハードルが高い。やり直したい人をサポートする仕組みの充実が必要である。

日本は起業のリスクが高すぎる。失敗しても大丈夫と安心できる環境の整備に力を入れる必要がある。

学びやチャレンジする場の確保をビジョンとして打ち出すと、若い世代には魅力的に映るのではないか。

若者が働きやすい場所や、若者自らが起業しやすい環境をつくる。若者がチャレンジして失敗しても、敗者復活できる地域でありたい。

若者は我々が余計なことをしなくても自走できるポテンシャルを持っている。だが、社会の圧力で、自分で枠を作ってしまうので、それをいかに外して、どんどんやっていいんだよと言っていけるかがポイントだ。

自分の枠を
はずして
挑戦する

1回起業して終わり、就職して退職して終わりではなく、いかに起業を繰り返していくか、シニアになってもアントレプレナーのような生き方を続けることができるかが大切。

起業するなど、主体性を発揮できる人もいる一方で、格差がより大きくなってしまっているのでと心配している。

自分で個性や創造性が発揮できない方がいる。そういった方が、落ちこぼれないようにしないとイケない。

II 新しいことに挑戦できる社会

5 わきあがる挑戦

お金は会社からもらうものではなく、自分で作り出すものだと知ることが大切。そうしたマインドを育む教育をすべき。

小さい時から地元の課題を認識しつつ、経験も地元でして、課題を解決したいと思ったらビジネスを作れる、将来的に戻ってくることもできる、という教育は大変重要ではないか。

お金 = 価値は
作り出す
ものだ

子どもたちが地域社会の中から、好奇心を伸ばしていくような取組が広がればいい。

学校などの箱物がなくても、何をやりたいかを応援できる体制があればいい。

実際に商売をやってみるとか、ものづくりをしてみるとか、実際にお金をもらうところまですることが、本当に役に立つ教育になる。

生き生きワクワクだけではなく
静かに生きたい、何もせずに生
活したいという人の望みも叶う
地域でもあってほしい。

人が減っていて、集落の活性化
に労力をかけて取り組むところ
まで至らないが、人が減っても
ここでできる限り生活したいと
いう人が多い。

静かに生きた
い人の望みも
叶う地域に

スポーツであれ、他の学びであ
れ、新しいことにいくつになっ
てもチャレンジしていくことが
当たり前の社会になればと思う。

自分のしたいことを自分の好き
なタイミングでいつでも始める
環境が整っている社会になれば
良い。

結婚までに自分のやりたいこと
をしようという考えから女性
の方がチャレンジする人が多い。
男性の方が保守的である。

暮らしの中での 文化とは？

広い意味での文化が暮らしの中核にあり、

一人ひとりがそのまちに生きる価値を

見出しているということが、

これから重要になる。

毎日の暮らしの中にもっと面白いこと、アート、楽しいことを埋め込む。それが特別なことではなく、誰もがやっているような地域をつくりたい。

自分が身に着けるものや身近な空間の美化など、暮らしの中で表現することで、人とのつながりを感じたり、ある場所を大事に思ったりすることができる。

アートは無駄ではない。生きる力になるものだ。

アートは
生きる力に
なる

なくても生きていけるものが人生を豊かにしてくれる。

文化のような一見無駄に見えるものが実は社会の活力源になっているという視点が大切だ。

芸術は心を豊かにするだけでなく、世界の共通言語である。

生活文化が均一化している。
もっと多様な文化が育ってほしい。

文化を議論するときには大事な
のは、スケボー、スプレーペイン
ティングなど若い人の文化を周
縁化しないこと。いろんな文化
を活かしてつながりをどう作る
かという視点で考えていく必要
がある。

ダンス、スケートボード、BMX
などスポーツと文化の融合領域
が今元気だ。

芸術やスポーツ
が日常に
根付く

伝統文化をはじめ、芸術やス
ポーツが何気ない日常に根付い
ている地域をつくりたい。

観光的でなく、素朴な原風景を
残しながら住民や移住者の暮ら
しにアートが溶け込んで潤いを
与えている地域をめざしたい。

芸術、音楽、習い事などで自分
の幅が広がり、人生を変えてく
れたと思っている。そういう選
択肢が田舎にもあれば、都会よ
りも素敵な住む場所になる。

芸術文化はもっと身近なものだ
と思っている。誰かと対話する
だけでも、演劇の一手法だし、
そのことで人の暮らしももっと
豊かになる。

文化は協働の有効なツールでも
ある。コロナ禍でも、人の心を
支える上で、音楽や演劇や本な
ど文化の力が大きかった。

心を一つに
合わせられる
のが文化

地域の人が同じ方向を向いて、
こんな地域をつくってほしいと
心を一つに合わせられるのが文
化である。文化は地域をみんな
でつくっていくために大きな役
割を果たす。

芸術を通じて地域とかがわりた
い。言語が要らないところでど
うつながれるか。体験型で何が
できるかを試していきたい。

共同体を維持する一つの手段と
して、伝統行事や、今の音楽、
映画などの文化を生かしていく。

いい文化を新たに作るだけではなくて、過去の歴史文化を振り返って、だからこうなっているという理解をするような、振り返りが重要だ。

伝統は守りましょうという思いは守っても、形は変化していて、その変化を認められることがこの産地の特徴。

新しい文化の創造も素晴らしいが、これまでの文化を大事にして発展させる視点が入ったビジョンであってほしい。

新しい文化を
自ら耕して
つくる

形骸化したものを正確に継承していくことには意味がない。受け継いだものをどう表現するかは、次の世代に委ねられている。

これからの時代に必要な文化を創るときに、昔の文化が参考になるならそれを使えばよいが、そうでないなら、新しい文化を自ら耕してつくるまで。文化とはそういうものであるはずだ。

いったん失われたものは元には戻らない。有形無形の遺産の保存、継承に取り組んでほしい。

初等教育で思考力、判断力、表現力を育成するために、豊岡が進めている演劇教育を県全体で導入してはどうか。

地域の人たちが、その土地の歴史や文化に触れる機会を積極的に増やしていかないといけない。

小さい頃から音楽や、楽器と触れ合うことも大切。音楽の好みなどから個性を見つけていけるのではないか。

小さい頃から
文化に触れる

フランスでは、小学生や中学生が美術館や劇場に定期的に行く機会がある。日本でも遠足で美術館に行くが、そんなに行く機会はない。

日本の美術館がつまらない。会話ができ、座り込んで模写できる場に変えられるかどうか。

子どもから高齢者まで気軽に音楽を楽しめる環境をつくり、豊かな心が育まれ、活気にあふれる地域をつくりたい。